

第 2 0 期 第 2 回 八尾市図書館協議会会議録

日 時 平成 2 9 年 2 月 2 3 日 (木)

1 4 時 0 0 分 ~ 1 6 時 1 8 分

場 所 八尾市立青少年センター 集会室

出席者 (敬称略)

松井 純子 (大阪芸術大学教授)  
北田 信吉 (八尾市青少年育成連絡協議会)  
西村 一夫 (元松原市民図書館館長)  
前川 和子 (元大手前大学教授)  
仙田 ひろ子 (大阪府立中央図書館 協力振興課長)  
松下 玲子 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当課長)  
二宮 久子 (八尾市社会教育委員)  
和田 友美 (八尾市 P T A 協議会)  
小林 洋子 (八尾市校長会 : 大正小学校長)  
池田 多瑛 (公募市民委員)

欠席者

東淨 美佐子 (公募市民委員)

事務局

中山 晶子 (八尾市教育長)  
田中 淳二 (生涯学習担当部長)  
西崎 剛介 (教育総務部次長兼八尾図書館長)  
伊藤 均 (山本図書館長)  
柿本 和彦 (志紀図書館長)  
西村 隆男 (八尾図書館館長補佐)  
筒 暁子 (八尾図書館利用サービス係長)  
松井 浩一 (八尾図書館資料係長)  
佐古田 明奈 (山本図書館係長)  
亀井 充志 (八尾図書館利用サービス係副主査)  
小畑 由季 (八尾図書館司書)

住本 和美 (龍華図書館長 : 指定管理者)  
岡 告美 (龍華図書館館長補佐 : 指定管理者)

## 1 議題

- (1) 市内4図書館における利用及び活動の概況について・・・資料1
- (2) 平成29年度八尾市立図書館事業計画等(案)について・・・資料2
- (3) 平成29年度八尾市立図書館予算(案)について・・・資料3
- (4) 龍華図書館の利用者アンケート結果について・・・資料4

## 2 報告

- (1) 図書館利用者からの提案について・・・資料5
- (2) 八尾図書館40周年及び新八尾図書館3周年について・・・資料6
- (3) その他

<松井係長> それでは、会議に先立ちまして、資料確認をお願いいたします。

まず、「第20期第2回 八尾図書館協議会 次第」、次に、資料1といたしまして「市内4図書館における利用及び活動の概況について」、資料2としまして「平成29年度八尾市立図書館事業計画（案）」でございます。資料3としまして「平成29年度予算案 八尾図書館事業別経費内訳」資料4としまして、「平成28年度 八尾市立龍華図書館利用者アンケート 調査結果報告書」、資料5としまして「提案箱に寄せられた提案等とその回答の主なもの」、資料6としまして「八尾図書館 40周年記念行事予定」となっておりますが、皆様お手元でございますでしょうか。

また、本日の会議時間ですが、資料配布時にお知らせさせていただいておりますとおり、2時間程度と考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、定刻となりましたので、只今より、第20期第2回八尾市図書館協議会を開催させていただきます。

本日は、ご多忙のところ、当協議会にご出席いただきまして、誠に有難うございます。なお、本日欠席されている委員は東浄委員です。

それでは、開会にあたりまして、中山教育長からご挨拶申し上げます。

<中山教育長> 改めまして、皆さんこんにちは。平素は、本市教育行政の方にご協力いただき、心から感謝申し上げます。とりわけ図書館行政に関しましてこうして皆さんお集まりいただいていることに心より感謝申し上げます。

明日から本会議が始まるため、庁内の方は議会に向けてみんなが右往左往しているところで、やっぱり図書館についても議員の皆さんに発信していかなければならないし、この協議会が有意義なものであって、またそれを発信していきたいと事務局が心ひとつにしてやっていきたいと思っております。

早いもので、4月にはこの新しい八尾の図書館がちょうど3周年を迎えますし、龍華図書館が2年目を迎えようとしています。新たに図書館を建設した後は、いかに充実して私たちが活用しているかを市民の皆様にも課題となって現れるかと思っておりますので、本日の報告にもありますが、ここで協議いただいたことを反映していかなければならないので、本当によろしく願います。

今年度、山本、志紀図書館が20周年を迎えるということで、次年度八尾図書館が40周年を迎えますので、それにあたりまして後で報告があるかと思っておりますが、それに関しましてよろしく願います。

子どもから大人まで読書に親しみ、八尾の市民がみんないろんな成果に繋がっていくようにと私たちも願っておりますので、また、子どもの読書活動推進の面におきましては、学校教育の方は、八尾の子どもたちが本をとでもたくさん読むようになって、本当にありがたいことで、このまま発展させていって、八尾の将来が本と切り離せないようなそんな市になってくれたらなと願っております。

本日は、大変忙しい中集まってくれましたことに心より感謝申し上げますとともに、この協議会、事務局からいろんな報告がこれから続くのですが、その方向性もご示唆いただけたらと思っておりますので、よろしく願います。簡単ですが挨拶に変えさせていただきます。ありがとうございます。

<松井係長> ありがとうございます。なお、中山教育長におきましては、公務のためこ

こで退席させていただきます。

<中山教育長>ありがとうございます。よろしくお願いします。(教育長退席)

<松井係長>では、これから議題に入りますので、松井会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

<松井会長>皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。なかなか天気も安定しないで寒い日が続いていますが、1回目の協議会は確か真夏でしたから、それから半年経ってしまったんですね。こんなに長い期間空くのは久しぶりなんですけれども、今日は皆様方にいろいろな議題がございますので、忌憚のないご意見を頂戴したいということと、2時間というふうに会議の枠は設定されていますけれども、必要な意見はどんどん出していただいで、尚且つ効率的に会議を運ぶということにさせていただきますと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

失礼して座らせていただきます。

それでは、議題(1)市内4図書館における利用及び活動の概況について、事務局からご説明をよろしくお願いします。

<西崎館長>本日、どうぞよろしくお願いします。八尾図書館長の西崎でございます。座って説明させていただきますのでご了承ください。

(1)市内4図書館における利用及び活動の概況について、資料1に沿ってご報告させていただきます。

まず、お手元の上の方、「文部科学大臣表彰受賞」の報告となります。子どもの読書活動の優秀実践図書館といたしまして、平成28年4月に文部科学大臣賞を受賞しました。既に、市政だより、ホームページ等でご案内しておりますが、今年度も定期のお話会や親子イベントなど親しみやすい図書館づくりに努めておりまして、子どもの読書活動を推進しております。平成27年度の本市図書館におけます児童書の貸出点数が、全館で87万3千冊、全体の貸出点数の約40%となっております。今年度の児童書の貸出実績につきましては、12月末現在でありますけれども、66万4,687点、前年度と比べましてもほぼ同数で推移しております。

続きまして、「読書通帳の配布」につきまして、開始以来、この約2年半で1万冊を超える通帳を発行しており、「読んだ本の一覧が積みあがって楽しい」などの声をいただいでしております。全図書館で配布・実施し、新聞、TV等での報道も多く、広く話題となり、関心をいただいでしております。通帳の裏面にスポンサー広告を掲載し、その広告料は図書館の管理運営経費の一部に充当しております。平成29年度は2社増え、5社のスポンサーとなります。

続きまして「図書館資料充実基金への寄付、本の寄贈、雑誌スポンサーの募集」についてです。平成29年1月より、寄附による記念品を市全体でリニューアルするなど、積極的に募っております。雑誌の閲覧コーナーは、150種類以上のさまざまなジャンルがあり、貸出実績は年間11万冊を超え、多くの方の目にとまっております。雑誌スポンサー制度では、広告の高い訴求力が見込まれ、また、雑誌の購入代金のみで広告が出せるなど、費用対効果に期待できるため、広くPRしています。スポンサー件数は徐々に上がっております。また、基金への寄附については、ホームページ、ポスターによる積極的なPRをしており、資料充実に活用しております。

続きまして図書館での「展示物の紹介」につきまして、より多くの方々に図書館を利用して欲しい、心地よく親しみをもってご利用いただきたいとの思いで各展示を行っています。今年度に入り八尾図書館出入口に河内木綿文様の暖簾を掲げ、日々、来館者をお迎えしております。併せて河内木綿の関連図書コーナーを設置いたしました。各図書館では、地域図書館としての個性を発揮した展示・イベントを実施しており、その一例となりますが、八尾図書館ではガラスの壁面を利用しまして、大きなキリンの絵を飾り、その中央には、1月に開催した本市在住の童画家であります徳 治昭氏による「お絵かきイベント」に参加した児童の作品を展示するなど、全館あげて子どもたちが図書館や本に親しめる環境づくりに努めています。

続きまして、次のページとなります。「山本図書館・志紀図書館 開館20周年事業」についてです。それぞれの図書館司書が記念ロゴを手づくりし、また、イベントポスター・ホームページ・チラシなどで広く活用しております。周年事業として通年で子ども向け、成人向けの様々なイベントや講演会を実施しておりますが、限られた予算の中、企画の際には「知恵・工夫・手作り」を合言葉に、地域図書館として利用者と近い距離で接することができる催しに心がけております。各館の取組みについては、お示しのとおりでございます。

続きまして「今東光資料館」についてです。「今東光と交流した人・藤本義一」と題する企画展を平成29年3月12日まで開催しております。1月には一部の展示替えを行いまして、自作絵画や収集品等を新たに加えました。今東光が故 藤本氏に贈った屏風は非常に好評を得ています。2月11日（土）には、義一氏の奥様である藤本統紀子氏を招いてのギャラリートークを開催するなど、終盤を盛り上げております。

また、平成28年3月19日から9月11日まで開催した「東光が記した“八尾のブラシ”～小説 河内風土記から～」では、八尾の代表産業のブラシについて、東光氏の小説の記述や当時の写真、昔のブラシ展示等と併せて紹介をしました。夏休みに実施した似顔絵イベントでは多数の作品が子どもたちから寄せられ、現在1冊の本にして図書館で展示しております。

続いて次のページ「龍華図書館」の運営状況についてです。龍華図書館は指定管理者により運営されており、平成27年8月開館以来これまで延べ20万人、約56万6千点の貸出を行っています。指定管理者の提案事業では、乳幼児を含む子ども向けサービスとして読書アニメーションの年1回開催、未就学児をもつ保護者向けに全10回講座「としょかんで楽しむ おやこのじかん」などを実施しています。併せて一時保育を実施しており、好評をいただいております。また、ヤングアダルトコーナーの設置もしております。一定の貸出数はありますが、さらに魅力的な棚づくりを目指して見直しを検討中です。ボランティア活動の支援については、養成講座の開催等をしており、中高生向けの絵本の読み聞かせのボランティア講座や、本の修理・装備ボランティア養成講座を実施しています。中学生の職業体験も積極的に受け入れを行っています。その他、学校図書館相談窓口の開設や開館時間等、市民の要望等の把握と図書館サービスへの反映についても、引き続き実施するとともに、今後も近隣の学校ともさらに密にしていく予定となっております。

また、市民の方々の貴重な意見を反映する一環として、児童エリアに「おたよりコーナ

一」を設置していて、子どもの声を聞くことも大切にしています。次に、龍華図書館の指定管理者の自主事業につきまして、図書館流通センターの収入及び費用負担により運営されていますが、セルフの書籍消毒機、コーヒー自販機、ブックカート、ベビースケール、デジタルサイネージの設置や、マスコットキャラクターの「りゅうと」の発表をしております。ブックカートは好評いただいております、増設を検討しています。「りゅうと」につきましては、キャラクターとして図書館を賑わせています。今後 Facebook の導入や龍華図書館の独自のホームページの作成等を予定しております。

龍華図書館の平成27年度のモニタリングレポートにつきましては、仕様書の内容に沿って事業を運営しており、直営館との連携を定期的に行い、バランスのとれた運営を行っており、利用者アンケートでは満足度が高い結果になっており、総合的にも「良好」と判断しております。

続きまして「八尾、山本、志紀、龍華図書館の利用状況」につきましてですが、4月から12月までにおいて、貸出人数は53万7,175人、貸出冊数は167万727点となっております。昨年度の同時期と比較しますと、ほぼ同数となっております。予算が厳しい中での図書館運営となっておりますが、月々のイベントや講座の催し、資料の展示方法の工夫、蔵書の活用などにおいて、知恵を絞り、工夫を凝らし、心を込めた手作りによってきめ細かくサービスの改善に努め、また、関係所管とも協力しながら図書館サービスの維持・向上に日々奮闘しております。

次に、年齢別の貸出人数につきましては、平成27年度と平成28年12月末までの9か月間の状況を表にしています。平成27年度との比較をしますと、幼児及び小学生、並びに60歳以上の利用につきましては微増している一方、中学生から60歳までの層で若干減少しております。こちらの層は、受験勉強、仕事、子育てなどが生活の中で大きな割合を占め、また、趣味を掘り下げたいなどのニーズもあることから、こうした内容に応えられるよう、図書館としてのイベントや資料の特集を組み、利用の拡大を図って参りたいと考えております。

次のページ以降は、平成27年度及び平成28年度12月末までにおける、一般書及び児童書の貸出点数を各ページに掲載したものです。12月末時点における比較をしますと、一般書及び児童書共に合計の伸びは101%と微増となっておりますが、各月ごとに分析しますと、7月までは平成27年度を上回っていますが、8月以降は95%前後で推移しております。これを図書館別にみますと、八尾図書館では平成26年度における改築オープン以来、予想以上の利用が続いておりましたが、一定落ち着いてきたこと、また、平成27年8月の龍華図書館オープンに伴い八尾及び志紀図書館の利用者が龍華図書館を利用するようになってきております。貸出点数に大きな影響を与えます新規資料の購入についてですが、利用者からは、新規資料の購入を増やして欲しいとの要望が多数寄せられておりますが、図書館としては、厳しい財政状況へのご理解を求めながら、限られた予算の中で購入しているところであります。

以上が資料1の説明となります。

<松井会長>ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対して、皆様の方から何か質問あるいはご意見がございましたらお出しただけませんか。

<前川委員>ただいまの館長さんからのご報告ありがとうございます。よく頑張ってい

らっしゃるのがよく分かりました。ちょっとお伺いしたいんですけど、2枚目のところの山本図書館と志紀図書館開館20周年事業というのを現在やっておられるんですね。私も実は志紀図書館に行ってきたんですけど、見せてもらったんですけども、使いやすい、なかなか素敵な図書館だなと思いました。記念ロゴが出来ているんですが、市民の応募はどれくらいあったんですか？というのが一つ目の質問です。

それから、できましたらせっかく記念事業をやっておられるので、例えばさまざまな講演会なさっておられるんですけど、どなたがどんな内容で、内容は例えば志紀図書館の方は、「志紀にまつわる郷土の話」というのが一応書かれてあるんですけど、これ講演のタイトルですよ。どんな方がこういうお話をしてくださったのか教えて欲しいと思います。右の山本図書館の場合も読書週間講演会の時に講演者がお話されて、かなり面白いお話をされているんですが、どなたがこんなお話されたのかなと教えて欲しいと思います。

いくつもあるのですが、あまりしゃべると長くなってご迷惑かけるので。統計の表ですが、最初の統計の表、利用状況ですが、日中と夜間と合計で分けておられるんですが、夜間は何時から何時なんですか。といいますのも、私は山本に行ったのはたまたま火曜日に行ったんです。5時5分くらいに着いたんです。そして、窓から一生懸命覗いてたら、利用者の方から「今日は5時までやから開いてないんですよ」と諭されたんです。他の曜日は7時までなさっているから、7時までが夜間に入るんでしょうけれども、そうしましたら、夜間というのは5時から7時までですか。その時間帯を教えてください。すみません。

<西村館長補佐>夜間開館中の時間帯は、今申し上げていただいたとおり5時から7時となっております。なお、日曜日と火曜日につきましては直営3館、八尾・山本・志紀は5時までの開館となっております。龍華図書館につきましては、火曜日の休館日以外、7時まで開館しています。

<柿本館長>志紀図書館の館長をしております柿本です。周年事業ロゴマークにつきましては、特別に予算がつかなかったもので、イラストを得意とする司書による手づくりで作成したものです。

それと、講演会の方ですが、関西大学の名誉教授であります藪田<sup>ゆたか</sup>貫先生から、八尾の方で女大学と申すものがあり、女性が文学を志すことに関してお話をいただきました。それと、元八尾市職員による「ゼロからひも解く歴史」というテーマで、分かりやすい歴史の文化についてお話いただきました。また、講演会だけではなくいろいろする中で目立ったものとして「しきにゃん」というオリジナルキャラクターを作りまして、観光名所などにある顔出しパネルをダンボールで作りました。図書館の玄関に置き、これまで300組以上が写真を撮ったりしています。また、ぬいぐるみやパペット人形を作ったり、缶バッジやしおりなど、大々的に20周年をPRしております。以上です。

<伊藤館長>山本図書館の館長の伊藤でございます。ロゴにつきましては、志紀図書館と同様で、日ごろからポスター・チラシ等で行事のPRするときに、司書が手づくりで作っておりますので、司書の方がいろいろ工夫をして、協同してこのロゴを作らせていただきました。利用者の方からは、山本図書館20周年の想いというのをいろいろな形でお手紙とかメッセージでいろいろ寄せていただいて、その寄せ書きを山本図書館で掲示す

るなどして、利用者の方々と一緒にこの20周年事業をすすめております。

それから、講演会につきましては、今東光さんが山本地区にあるお寺の住職をされていたということで、20周年の記念講演会をしました。講師は、八尾市市史編纂委員である滋賀県立大学で民俗学を研究されている市川教授に、もう一人、市の職員で今東光を語る会の代表をしております青少年課の課長の伊東さんに講師を務めていただきました。コンサートにつきましても非常に好評でして、いずれも満員盛況で多くの利用者に高く評価をいただいたという次第です。

<松井会長>では、他の方はいかがでしょうか。質問でもご意見でも。

<西村委員>まず、3ページ目の龍華図書館の件で、ヤングアダルトサービスでさらに魅力的な棚づくりを目指して検討中という、もしこの検討中の中身が分かりましたら教えていただきたい。

それから、2つあとの学校図書館相談窓口の開設とありますけれども、2月に龍華の近隣とやっておられるわけですが、市内学校たくさんありますので、その他の図書館ではこの学校図書館相談窓口というのは開設されていないのかどうか。やはり、龍華だけでなく、やはり八尾市として市全体の学校図書館に対するサービスが必要になると思うのですね。学校ボランティアとの打ち合わせみたいなものを全市的にやることで公立と学校との連携が進むと思うんですけれども。そのあたりがあるかどうかというのが2点目です。

それから、統計表の一般図書と児童図書。先ほど館長さんのご説明では全体で101%ということで、ほぼ前年並みであろうということでしたが、細かく見ると、八尾図書館はマイナス28,904で10%減、移動図書館はなかなかいろんな要素があるんでまあ、山本が5%減、志紀が11%減、龍華が81%増、これは4・5・6・7月は前年はなかったですからその分が増えている訳ですよ。龍華でも8月から12月前年活動やっている時期を合計しますとマイナス863で1%減でほぼ同一だろうと、最後の児童図書のページをめぐっていただくと、八尾図書館も12%減、山本も6%減、志紀も11%減、で龍華も8月から12月という前年にサービスがあったもので比較しましたら、マイナス5,731冊で6.5%減なんです。単純な数字としては前年とほぼ同じということで対外的には出せるとは思うんですけれども、中身を見ましたらやはり厳しい状況だということ認識していただいて次年度に向けてそのあたりの改善をしないと、次の年はさらにマイナスですね、例えば5%とか6%とかというような状況が表的には出てくる可能性がありますので、そのあたり後の29年度のサービスというところがありますので、特にここでご回答いただかなくても次年度に向けてさらに活動を展開していただければ、まあ、現状についてはそのあたりの認識をお願いしたいというところ。以上です。

<西村館長補佐>まず、統計の部分につきまして、委員さんおっしゃるように1年全体のスパンで見た中で、龍華図書館の開館前の4から7月の計上がない中で、全体として101%という形になっておりますので、毎月の館長会議等において危機感を持ちながら、意見を出し合っている現状でございます。29年度の計画・予算の方もこの後ご説明をさせていただきますが、全体的に八尾図書館がオープンし、龍華図書館がオープンし、お客さんが集中していた時期からいうと落ち着いてきたのかなと理解しているので



すが、今後とも新規開拓を含め、読書活動を推進する中でいろいろ工夫していきたいと考えています。

次に、学校図書館の方の関係では、学校図書館サポーターを対象とした研修など年1～2回しております。併せて学校図書館では、1年間の学校貸出や調べ学習等の必要に応じて1か月間貸出もしております。平成27年度の統計によると、府下の中で高い貸出実績となっています。引き続き学校園支援については、他にもいろんな方向から考えて行けたらと思っております。

<住本館長>龍華図書館の館長の住本です。よろしく申し上げます。

ヤングアダルトサービスの具体的な内容ということなんですけれども、中高生自体の利用者が少ない、貸出も少ない、来られるのは自習とか勉強とかの席の利用が多いということで、もっと本を借りていただきたいということがありまして、開館よりYAコーナーを作っていますが、その蔵書の貸出冊数とか利用状況を踏まえまして、本の入れ替えも随時行っております。まず、中高生に図書館に来ていただくために、中高生が参加できるイベントが少なかったのが、今年1月から3月連続で中高生向けに講座のイベントを実施しております。やはり参加人数は少ないんですけれども、確実に図書館に来ていただける利用者を増やしていきたいということで、少人数ながらも続けていこうと思っています。その利用者を通じて、どういう本の需要があるのか、傾向があるのかを踏まえまして魅力的な棚づくりを目指して取り組んでいきたいと思っております。

先ほど少し出ました学校図書館相談窓口の開設についてですが、まずは近隣の学校と連携することから始め、団体貸出とか図書館見学とか職業体験の受入は行っていますが、まだそれ以上のことはできておりませんので、今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

<田中部長>生涯学習担当部長の田中です。特に学校教育部と生涯学習部との連携というのは我々意識させていただいているところです。貸出点数をどこに目標に持つのかということについては、西村委員さんからご指摘いただいたとおりになかなか厳しいものがあると認識しておりますし、これを劇的に上げられるかということについても、SNSを中心とした電子媒体が特に若者の生活の中心になってきているというようなところで、久しく活字離れというようなことが言われていますけれども、八尾も含めて公立図書館の目標の持ち方、そのあたりは相当厳しくなっているんだろうなと認識しております。そうは言っても、我々としては、小学生のうちから本に親しんでいただくというところで、学校現場においては、朝の読書タイムなど活字に親しんでいただくような取り組みを学校教育部あるいは学校現場が中心になってやっていただいているところで、それが何年か後に花が咲いていけばなというところもありますし、今の高校生や大学生の世代を見たときに、自分も大学生の子どもがいてるんですが、「本どこで借りてるの？」って聞いたら「学校の図書館で借りてる」と。大学あるいは高校の図書館もかなり充実されてきているところもありますし、それくらい子どもたちは調べ学習であったりとか受験のための本を借りて読みあさっているというような世代でもありますので、本当はいろんな伝記ものであったり小説であったりっていうものにも手を触れていただきたいと思っているんですけれども、まあ、そこらへんは学校現場と密にさせてもらいながら、地道な努力になっていくかも分かりませんが、ひとつの目安として対前

年度の貸出点数というのはあるんでしょうけれども、あまりこの目先の数字も見ながらでありますけれども、長い目で取り組んでいく必要があるのかなというので今させていただいているところです。

<松井会長>ありがとうございました。西村委員、よろしいですか。他の方はいかがでしょうか。どうぞ。

<二宮委員>今、おっしゃっていましたが、学校の図書室が本当に充実しているみたいで、週1回の貸出で持って帰ったりして、孫もいっぱい机の前に置いております。本当に本を読むということは、教育長さんもおっしゃっていましたが、小さい時から読んでいると自分の為にもなるしと私もよく言っています。図書館におきましても、読書通帳ってございますよね。これだけ小学生が借出して、それがすごくみんなに見せびらかすではないのですが、こんなん持ってるねんどやってるみたいです。ちょっといいことだなと思って、言わせていただきました。

<松井会長>ありがとうございました。他の方はいかがですか。池田委員どうぞ。

<池田委員>私も資料を見て、意見というか感想を述べさせていただきます。まず、最初3ページのところでですね、龍華図書館さんは私の地元でもありますのでよく利用させていただくんですけれども、児童書エリアの「おたよりコーナー」というのがあります。これが定期的に取り換えて新しいものが掲示されているんですけれども、やっぱり子どもさんなのでいろんな思いというのが書かれてあるんですけれども、それに一枚一枚とても真摯に対応されている、返事を書かれているのを見ると、本当に利用者さんと対話されているのを感じられて、子どもさんもたぶん嬉しいだろうなと思っています。愛着も感じてくるのではないだろうかと思っています。すごくいいことだと思うので紹介させていただきます。

それと、貸出点数についてですけれども、4館の利用状況のうち、7月・8月が、貸出人数・冊数共に一番多いということは、やっぱり子どもさんの利用という、貸出冊数が大きく影響していると思うんですけれども、あと、お話をさせていただくんですが、児童さんはもちろんなんですけれども、乳幼児さんのお話会の参加がすごく多くてですね、たぶんどこの館もそうだと思うんですが、親子さんと一緒に来られて、龍華の方でさせていただくのはだいたいいつも20組とか、本当に一杯になるくらい来ていただいています。そういうニーズがあるので、是非子ども向けばかりというわけではないんですけれども、やはりニーズのあるところには力を注いでいただきたいなと思っています。併せて年齢別の貸出人数の分なんですけれども、元々龍華図書館は図書館が無いところに図書館ができて、それまでは、龍華小学校が移動図書館のステーションになっていたんですね。その当時から、児童書の貸出冊数というのがすごく多くてですね、市内でも2番～3番とそんなだったと思うんです。そういうニーズがあるにも関わらず、このこの数字というのはもちろん少なくはないんですけれども、もっと開拓の余地はあるのかなと感じていますので、是非頑張りたいなと思っています。以上です。

<松井会長>ありがとうございました。他の方は。はい、どうぞ。

<北田副会長>要望なんですけれどもね、よくイベントをやっているのはよく分かるんですわ。何人くらい来たんかそれを我々に教えて欲しいなど。それを要望したいと思います。それだけです。

<西村館長補佐>イベントへの参加人数は、年度途中となりますので、平成29年度に入りまして、次の協議会の時に詳しいイベントの内容と参加人数を報告する予定です。

<北田副会長>なぜ、要るかといいますと、例えば今ここで書いております「としょかんで楽しむ おやこのじかん」の実施と一時保育ありと書いていますね。龍華図書館のことでありますね。我々、これ見ただけでは何人くらい来て、どれだけ人気があったんかなとか、それを言っとるわけですわ。確かにやっていただくのは大いによろしいと私は思ってるんですけどね。我々判断するのはね、やっぱり人気あったんか無いか、そういうことを聞きたいと思いますんでね、後で聞くより今言うてるときにね。要望ですよ。要望ということで出したいと思います。

<西村館長補佐>分かりました。

<松井会長>ありがとうございました。かなりご意見も出ましたし、かなり時間も使っていると思いますんで、次に行きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、議題の2番目に移りまして、平成29年度八尾市立図書館事業計画等（案）についてということで、ご説明をお願いします。

<西村館長補佐>それでは議題2 平成29年度八尾市立図書館事業計画及び議題3 平成29年度八尾市立図書館予算についてでございます。

まず、資料2平成29年度八尾市立図書館事業計画（案）及び資料2参考資料についてですが、図書館サービス計画の基本目標に沿いまして個別の取り組み内容をまとめたものでございます。先ほど議題1、図書館の活動の概況についてご説明をさせていただいた部分についても、平成28年度計画に沿い活動してきたものであります。平成29年度につきましてもこれまでと同様に図書館サービス計画に沿い、引き続き取り組みを進めていきたいと考えております。

「基本目標1 地域の情報拠点となる図書館」としまして、印刷出版物とデジタル資料等のハイブリット化の推進、貸出・予約サービスやレファレンスサービスの充実の3つの方向性からは、資料の購入、今東光資料館の運営や地域資料の収集、地域情報コーナーにおける情報発信等提供を、また、学校貸出や団体貸出の充実について引き続き取り組んで参ります。

「基本目標2 市民生活を豊かにする図書館」としまして、市民生活を支える情報提供の充実、多様な学習機会の提供、市民の活動を広める場づくり、地域自治形成の支援の4つの方向性からは、公共機関や地域のまちづくり協議会等の活動情報の収集・提供、八尾図書館に市民の学習の場となる学習室を継続し、龍華図書館においても共同研究室を学習室として引き続き提供いたします。また、引き続き市民活動団体の活動支援、情報提供に努めて参ります。

「基本目標3 すべての市民が利用しやすい図書館」としまして、全市的な図書館サービスの展開、利用者に応じた図書館サービスの推進、図書館情報の分かりやすい発信と提供の3つの方向性からは、市内4図書館の連携したサービス体制を引き続き充実させていくとともに、龍華図書館では休館日を火曜日とし、月曜日の開館を継続いたします。また移動図書館サービスについては引き続きの実施しておりますが、今後について検討を進めます。八尾市全体の施策の基本方針として「健康づくりの推進」「未来の八尾創り～子育て・子育て支援の充実～」という柱があり、図書館におきましても利用者に応じ

た図書館サービスの推進のなかで、妊婦の胎教活動を応援する取組み、つどいの広場への司書の派遣、健康づくりの観点から八尾図書館において健康相談会を継続実施して参ります。次に、障害者差別解消法の対応につきましては、引き続き、筆談カウンターの設置、対面朗読やデジ書庫の貸出なども実施しているところでありますが、施設利用に関し、視覚障害者への付き添いなど合理的配慮が必要な場合はそれぞれの場面で適切な対応が取れるよう職員研修等も実施しているところであります。情報発信においてもホームページや広報において、図書館の取組みについてお知らせしているところであります。

「基本目標4 市民に開かれた図書館」としまして運営体制の整備・充実、専門職員の資質・技術の向上、運営への市民参加の推進の3つの方向性からは、龍華図書館を指定管理者制度による運営を継続するとともに、各図書館において地域特性や利用者動向、ニーズに応じた取組みを進めます。龍華図書館については、指定管理者の指定期間が平成29年度末をもって満了を迎えるため、次期選定に向けた取組みを進めて参ります。次に、今年度は八尾図書館が設立40周年を迎えるため、後ほど報告させていただきますが、記念行事の企画を現在行っております。次に、研修会の相互実施などを通じて資質・向上を図るとともに、公聴メールや提案箱の設置により利用者サービスの把握に努めて参ります。

続いて資料2-参考資料をご覧ください。これまでに平成28年度中に実施いたしました、各館行事の実施概要でございます。現時点での内容を簡単にまとめております。なお、注釈にもありますが、これらの他にも定例のおはなし会やボランティア団体さん主催の取組みなども多数ございますので、このあたりにつきましても次年度報告として入れさせていただきます。中身につきましては、八尾図書館、山本図書館、志紀図書館、龍華図書館、各館それぞれ主催の行事であるとか、司書派遣、職業体験受入、施設見学の学校等の校数等を入れさせていただいておりますのでよろしくお願いたします。

続きまして、平成29年度図書館の予算についてですが、市全体の財政はここ数年が最も厳しい状況下での予算編成となっており、資料3でお示しをしている内容を含めまして、現在3月市議会に予算案を提案しております。今後、委員会審査を経て、最終市議会の議決が3月24日となりますため、現時点でお示しできる範囲に限りがございますこと予めお断りをいたします。

それでは、平成29年度当初予算でございますが、市全体の一般会計が1,013億9,530万2,000円となっております。そのうち教育費につきましては、71億7,392万2,000円となっております。そのうち図書館費は4億8,797万6,000円となっております。教育費全体に占める割合は約6.8パーセント程度となっております。平成28年度当初予算と比較しまして図書館費全体では413万8千円の増となっておりますが、給与等のベースアップに伴う人件費の増が要因でございます。各館の運営費につきましては資料費、消耗品費等において一定額減となっております。今般お示しできる内容は先ほど申し上げましたとおり以上となります。大変雑駁な説明でございますが、よろしくご協議のほどよろしくお願いいたします。

<松井会長>ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明に対して何か質問等はございませんでしょうか。どうぞ。

<松下委員>まだ、予算の内訳がなかなか明確にはということなんですけれども、図書購入費が27年度から28年度にかけて半額まではいかないまでも、かなり減らされたと思うんです。今回28年度から29年度に関して大雑把なところでいいんですけれども、どの程度、おそらく減っていらっしゃるんだろうなと思うんですけど、教えていただけますでしょうか。

<西村館長補佐>市全体の予算について、経常経費については一律前年度の5%シーリングとなっており、資料費につきまして、前年度と同様基金を活用しながらですが市の方針を受けた予算配分になると思いますが、3月24日の本会議の議決を待って、最終判断になると思っています。

<松下委員>先ほどの統計のところ、この予算のことをお聞きしてからお聞きしようかと思っていたんですけれども、今年度の貸出人数とか貸出冊数とかで統計をお示しいただいているんですけれども、イベントとかしているけれど、とんとんみないなところは、27年度から28年度にかけてやっぱり資料費はかなり減らされたということで、その部分がやっぱり実際大きいと違うかなと私は思うんです。自分のところが予算がかなり逼迫している状況なので、平成24年度のときに財政状況が悪い時にガクッと図書費が減った時に、やはり貸出冊数とかも響いた面もあったので、そこは維持しないといけないかなというのと、あとは、蔵書構成を考えていかなければいけないと違うかなと思うんです。ベストセラーとかをばんばん買えば、それは飛びついてくださって貸出にも結び付くとは思いますが、そうではなくって、貸出が指標になるかというところではなくって、地域の方にとって知識を得るための場所として必要とされているかどうかというのが大事だと思うので、貸出冊数を指標とするだけではなくて、レファレンスをどのくらい利用なさっているとか、SNSや電子機能とかもおっしゃっていると思うので、その辺のところの利用状況も合わせたうえで今後の方針を決めていくことが大事かなというふうにとちょっと考えました。

<西村館長補佐>松下委員にいただきましたご意見ですけれども、こちらとしましても資料費の減額という部分、27年から28年にかけての約半額という部分ですね、図書館は資料が揃わないとなかなかしんどい部分というのが当然こちらもその思いはございます。また、おっしゃるように、市の方針としまして、先ほども申したんですが子育てでありますとか地域のまちづくりといった観点からの資料集めというのも必要だという視点に立っております。市の方針、地域地域に合わせたニーズ、各館で利用者層のニーズを把握しながら展開して行きたいと思っております。

<西崎館長>予算厳しい中で、予算が半分になったからといって利用者が半分になったという程ではないので、やはり、日々の運営努力の中で歯止めをかけておるというのがあります。実感して参りましたのがブームや流行を追うだけではなくて、レファレンスにおいて、市民の方とよく会話をし、司書それぞれがニーズを掴みそれを自分の中で企画ですとか選書の中に反映していくということで市民の方々に直接要望に応えられる地域図書館になれるのかなと実感しております。マスコミ等での話題を反映することも確かに必要ですが、市民の方一人ひとりの声に耳を傾け、ニーズに反映した運営をしたいと、予算少ない中で今考えておるところです。

<松井会長>いいですか。では、前川委員お願いします。

<前川委員>本当は、全部資料について説明していただいた後に、説明をした方が総合的に分かりやすいのかなと思って、できるだけ黙ってよという気はあったんですが、ちょっと途中でお聞きしたい。今松下さんからのご質問についても、とても大きな視点ではないかと思ってます。ずばり、八尾の図書館では利用者というのをどんなふうにもまず捉えていらっしゃるのか、先ほど見せていただいた資料2のところを見ましてもですね、来年度に対する意欲というのもすごく分かるんですけども、こっだけ全部上げて全部予算化しようというのも不可能だと思います。そして、実際この統計を見ましたら、明らかによく貸出とかその傾向になっているかどうか分からないと思います。先ほど松下さんがおっしゃったように、貸出が一番ではないと思う方なんです。レファレンスであるとか他のいろんなサービスに結びつくところにどのくらいの方がどんなふうな思いを持って利用されているのかということとちゃんと知らないことには利用者の傾向というのはよく分からないと思うんですが、まあ少なくとも、この貸出を見てみますと、よく利用されるのはいわゆる高齢者、60歳以上の方がコンスタントによく使っておられるのではないかというのと、小学生がよく使ってもらっしゃるように思います。この龍華にしても、私が見せてもらった志紀の図書館でも子どもたちの利用というのがすごい目立たんじゃあないかなと思うんです。まずは、その辺のところはちゃんとガッチッと取っとかないと、いつも魅力ある図書館として繋がっとかないといけないのかなと思うんですが、八尾図書館でも40歳代の方がよく貸出をされているというのがありますよね。そんなんでも、利用のし易さというのを、ちょっと手を差し伸べれば食いついてくれるというんがあるかなと思いますから、そんなのも大事な利用者ではないかなと思うんですが、なんせこの意欲的な事業計画書を見ると不可能ではないかなと思うんですよね。意欲は分かるんですよ。これでやってもらっしゃることを見ても本当に頑張ってもらっしゃるのが実際見せてもらったら分かりますし、どうやってやんのっていう、つまりですね、研修にしてもですよ、ものすごく曖昧なんです。具体的にどうすんのと。忙しくて、お金がなくて、じゃあどうするんですかというのをちょっとね、気持ちと現実がすごい乖離してるのがものすごく分かってつらいなあっていう思いがあるんですが、そんなんで。それからですね、まず私がお聞きしたいのは、市全体の予算とこの八尾の4つの図書館の持つ予算のパーセント、これ、過去から同じパーセントでいってるんですか。今聞いたら、現在は6.8%ですよ。

<西村館長補佐>教育費に占める割合ですね。

<前川委員>教育費に占める割合、そんなふうに来られたんですか、ずっと。それとも、八尾市全体のパーセントで捉えてはるんですか。これは絶対ね、どうやったら運営ができるかというくらいのパーセントは毎年確保しないといけないんじゃないですかね。市民がこっだけ利用しているから、毎年市全体の予算の何パーセントかはちょうどいいねというふうに頑張っていたかかないと、その年その年によって、なんとなく微妙な数字に変わるといえるのは、やっぱり変じゃあないですかね、市民サービスとしては、と思いますが。その辺の捉えも教えていただけたらと思います。すみません、長いことしゃべって。

<田中部長>担当者はなかなか頑張ってくれてはいるんですけども、予算折衝の中で、なかなか厳しいのがこの何年か続いているっていう実態があって、担当の口からなかなか

難しいので、私の方からざくっとした話になってしまうかも知れませんが、少し申し上げますと、そもそも八尾市の予算構成の中の教育費というのはここ何年かで見てみますと相当伸びてきている、というのが実は現実の問題として、財政当局の側から見たら現実の映りになっています。しかも、八尾というのは元々八尾図書館が一番のスタートであって、それで地域図書館として3館になり、4館になりということで、大きなトレンドとしては図書館費も一定膨らんできているという傾向にあるのかなと。ただ、今先生ご指摘のように、当然市民のニーズに応えられる、耐えうるような図書館でないといわたくしどもとしても担当としては当然厳しい面がございますので、まあ、そういった視点で財政当局とは折衝はさせていただいてますけれども、実際に、うろ覚えでざくっとした数字を申し上げて申し訳ないんですけども、確か平成25年度時点で自治体の貯金というのがだいたい100億円くらいあったかなと思います。ところが、平成26年度の決算を打ったときに貯金100億円あったのを約30数億円取り崩すというような非常事態が1回起こっています。それからさらに、次の年度も20億前後だったと思うんですけども貯金を取り崩している。昨年度も、また数億取り崩しているということで、もう貯金を取り崩さないとい八尾市の財政が今なかなか回りにくいというような、財政構造上かなり厳しい状況に今八尾市は置かれているということで、今年度の予算を組む折にもですね、いろんな所管担当課が財政に対して予算要求をするんですけども、まずは昨年度ベースから見たときに、一律5%削るよというふうな方針を打ち出してこられたというのがこの間の八尾市の財政面での動きというのが実際あります。

で、資料2のお話もちょっとしていただきました。資料2におきましては、図書館サービス計画というのをもちまして、計画的に図書館行政を進めて行こうというふうなところでいろいろ取り組みをさせていただいているんですけども、そこにこんなことは当然やっていきたいね、やっていこうねというふうなところは計画の中でつぶさに示されてましてですね、まあ担当としたら、こんなことをやっていこうねということをして削るということをし辛いということもあって、ただ、ご指摘をいただいたみたいに、じゃあどこに重点を置くんだというふうなやり方で予算を使っていくというふうなことに現実問題としてはなろうかなというふうに思います。で、この努力を私を筆頭に担当者がやっていくというふうなことになると思います。資料費について、こういう金額で、今年度どういう分野でどんだけの図書を購入するんだ、あるいは、職員に対しての研修はどれだけの頻度でどういう趣向の研修をやっていくんだというのは知恵・工夫を出しながら担当の方で構成をしていくというふうなことで、できるだけ市民さんにご迷惑の掛からないような形で図書館行政が運営できるように、我々としては取り組んでいきたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

<松井会長>よろしいですか。なかなか突っ込んだご質問をいただきまして、それに対して非常に苦肉のご答弁をいただいたという感じでありますけれども、事情はよく理解はできる状況かと思っております。ただ、図書館の資料費が減るとどうしても利用が減るとするのはどこの図書館にも言えることだと思いますので、その辺は適宜考えながらということをお願いしたいと思います。

それでは、本当に時間が押してきていますので、次の議題に移りたいと思います。議題(4)龍華図書館の利用者アンケート結果について、こちらの方に移りたいと思います。

ご説明をお願いします。

<西村館長補佐>続きまして、資料4の龍華図書館での利用者アンケートの結果につきまして、ご説明申し上げます。平成28年12月7日(水)から14日(水)までの間に、午前9時～11時、午後3時～5時、午後5時～7時に来館された利用者の方にカウンターで手渡しにて用紙配布し、館内の回答箱で回収しました。有効回答344枚、81.9%の回答率でございます。

アンケートの中身につきましては、主なものでは、4ページの利用回数では週1回以上と答えた利用者が190人で利用者割合が55%、5ページでは来館方法は自転車・徒歩が約82%ということで、利用される方のほとんどが自転車・徒歩圏内なので、80%以上の方が近隣の方なのかなと推測がつかます。利用時間は30分以内と1時間以内を含めると84%を占めています。続きまして、7ページのスタッフの接遇については、満足、やや満足と評価する方が90%以上と評価しています。また、設備面や蔵書についてですが、設備については一定の評価を頂戴しておりますが、蔵書については先ほど議論いただきましたとおり資料費削減の部分も影響しているものと思われそうですが、特に雑誌やAVについてやや不満、不満と回答する利用者が多い傾向が見られました。その他の意見としましても、蔵書に関する要望、スタッフに対する激励や感謝の言葉などもいただいております。後ほど提案箱の報告の項目と重複する部分もあろうかと思いますが、ご確認いただければと存じます。

このアンケート集計結果につきましては、最終校正させていただき各図書館において配架させていただきますとともに、図書館HPに掲載を行っていきたく思っておりますのでよろしくをお願いします。

以上大変雑駁な説明でございますが、よろしくお願ひいたします。

<松井会長>ありがとうございました。では、皆様の方からご質問・ご意見等ございましたらお願いします。仙田委員どうぞ。

<仙田委員>今説明いただきましたアンケート結果についてですが、アンケートの調査方法なんですが、時間帯を分けて用紙を配付されたとありますが、このように分けられた理由がお有りなのか、それとももう少しリンクさせるような形で回答しようとしているのかそのあたりを教えてくださいませんか。

<西村館長補佐>アンケート調査の時間帯に関しましては、前回と同様の3つに区切り行っています。

<仙田委員>配付された時間帯によって利用されている方の年齢層とか違いがあったりするのかなと思いましたが、そのあたりも含めて何か検討されるための工夫なのかなとちょっと思ったので。

<西村館長補佐>一日を3つの時間帯に割り、午前中20枚、午後の前半が20枚、午後の後半が20枚という形で、窓口での直接配付により実施しています。例えば、放課後の3時から5時くらいでしたら子どもさんが多い時間帯となりますので、その時間帯に配りますと子どもさんが多くなるという傾向が見られますので、3つの時間帯にわけたところですよ。

<松下委員>今の件で、その時間帯ごとの集計もされて、分析なさってるんでしょうか。

<西村館長補佐>配付のみで、その時間帯ごとの縦集計はしておりません。



<松下委員>配付する時間帯によって、何か用紙に目印がついてましたか。

<西村館長補佐>今後、そのような形でクロスで集計できるような形でできればと考えていますが、今回はそのような形ではやっていないです。

<松下委員>アンケートのグラフを出していただいているんですけども、パーセンテージが出ていないのと、それから棒グラフは量を比べるためのグラフなので、できれば円グラフにさせていただいて、割合がきちんと分かるような形での見せ方にさせていただけると、パッと見たときにこの部分がどんだけの割合をとっているんだなということが分かって見やすいと思いますので、ご提案です。

<西村館長補佐>はい。分かりました。

<松井会長>はい、ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。はいどうぞ。

<西村委員>アンケートはもちろん重要なことだと思うのですが、アンケートをされて、図書館としてこのアンケートを受けてどう考えるんだということを、まとめですね、それは出される予定はあるんですか。この数字を見てこれだけの利用者があって、こういうふうな状況があって、いいところ悪いところたくさんあって、アンケートをまとめ、アンケートをまとめたことによって、さらに次に生かすというような流れが基本的にあると思うんですね。そのまとめを図書館としてこのアンケートをどう考えるのかということについてお聞きしたいんですね。別に今日なければ次でも結構ですし、これ予定もないのかもしれないです。

<西村館長補佐>分析という部分に関しましては、指定管理者制度の中で、モニタリングの指標の一部でもありますので、この結果は評価に直接絡んできます。ついては、分析資料の一つですので、そこを総括してどのように出していくかは課題と感じておりますので、今後充分検討したいと思います。

<西崎館長>補足ですが、この後に、資料5になります。提案箱にいただいた回答ということで我々見解の方を書かせていただいております。アンケートの中で出させていただいたご意見、ご要望につきましても資料5の時に併せてお答えさせていただければと思います。

<松井会長>ありがとうございます。そうしましたら、資料5というと、報告(1)のことだということですよ。「図書館利用者からの提案について」ということで、こちらのこういう提案に対して図書館の回答もこちらには示されておりますので、これももう併せてやっていきますか。

<西村館長補佐>はい。分かりました。会長の方からご指示いただきましたので、報告(1)「図書館利用者からの提案」の部分、ご説明の方させていただきます。資料5をお開きいただきたいと思います。

平成27年1月から各図書館、4館におきまして、利用者からの提案箱を設置させていただいております。内容につきましては、広く図書館の運営に関するものから資料に関するものまで、どんなものでも図書館に関するものでしたら図書館の方が回答するという形でさせていただいております。毎月月末あたりに回収し、次月に館内の掲示板に質問と回答をセットで掲示させていただくという形でさせていただいております。各館における課題もさまざま、各館の要望事項も多岐に渡ることから、今回は事務局側の方で5つのカテゴリーに分けて集約しまして、代表的なものを掲載させていただきました。

館毎にそれぞれ課題のあるものや全館共通の課題もございますが、これら意見について対応できるものは極力対応しまして、できないものについてはその旨を回答しておりますので、ご確認賜りますようお願いいたします。

今後もこの取り組みですけれども、一定利用者の方からこういったご意見をいただいて、それを改善していくという図書館側の姿勢を示すためにも、引き続き継続し、サービス向上の観点、利用者目線での観点を取り入れて、利用者にとってより良いサービス提供ができるよう努めて参りますのでよろしくお願い致します。以上です。

<松井会長>ありがとうございます。そうしましたら、こちらの提案と回答についてでもご質問・ご意見等お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ、池田委員。

<池田委員>一市民の意見として申し上げます。本当に資料費があんなに減ってしまって、本当に残念というよりも、新しい館が2館建ったのだということももちろんあるでしょうしということも重々承知しているつもりなんですけれども、この提案の方にもたくさん意見として、雑誌を大幅に減って残念です、「終了しました」というのがですね本当にたくさんあって、ニーズがあるのにつて、本当に残念に思っています。是非図書館って赤ちゃんからご年配の方まで、赤ちゃんというよりもお母さんのお腹の中にいるときから本への親しみというのをすすめていきますよね。そんなに年齢幅広く利用できる公共施設というのが図書館くらいなのかなと思っています。是非そういうところの必要性というか、本当に生涯学習という意味でも是非事務方の方にも頑張っていただきたいなと思います。

龍華図書館の館長に直接お話したんですけれども、開館一年で、本が揃わないうちにこうやって減額されて、資料というか本自体が少ないんですね。児童書コーナーなんですけれども、複本が5冊とかのがあるんですね。それが1タイトルだけではなくて結構私見ました。それだけその本に対してニーズがあるのかということそうではないと思うんです。確かにいい本が置いてあるんですけれども、それを館長に申し上げたところ、ガラガラの本棚よりかはあった方がいいんじゃないかという、それはすごく私も納得したんですけれども、ただ、やっぱりたくさんの方が読む本、幅の広い年齢の人が楽しめる唯一の公共の施設なのに、そういうところで無いていうのも本当に残念だと思っておりますので、厳しいのは重々分かってますが、是非ぜひ頑張っていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。要望として、すみません。

<松井会長>ありがとうございます。他の方いかがでしょうか。どうぞ、小林委員。

<小林委員>いろんなお金が削られる中で、これ見させていただいて思ったのは、スポンサーを取られていて、雑誌を購入していただいたりというのは、すごく図書館の方々努力していただいているなというふうに感じています。で、私たち学校現場でもよく学校教育アンケートというのを取って、自由記述をされると、どう保護者に返そうかなと思って悩んだりするんですけれども、この提案箱に入れられた提案をこういうふうに挙げられて回答を載せられているというのをずっと見させていただくと、これうまく資料整理してここに付けていただいたんですけど、本当に裏表の意見があって、これを出されることによって自分はこう思っていたけど、違う人の目線から見ると全く逆のご意見なんだなということをそれぞれ図書館利用される方のマナーを向上できるように言ってくださいと皆さんおっしゃってるんですけども、その一助になってるなあと、自分ではこ

ういうふうに使いたいけど、人にとってはそれは迷惑であったり、或いはこういうふう  
に静かにして欲しいけどもそれでも子どもを連れてきたいと思っている方がいるんだな  
というふうなことをお互いに理解しながら、公共のこういう図書館という場所を、一人  
でも多くの方が少し我慢もしながら、気持ちよく使っていけるようなそういう方法にな  
っているなというふうに感じています。これをまとめて回答されるだけでも大変だなと  
本当に頭の下がる思いです。ずっと最初の方から、学校現場での図書活動の充実という  
ことで取り組んでいただいているということで、実は学校の方も4月になりましたら学  
級文庫に置く分が学級担任だけの力ではどうにもなりませんので、図書館さんの方にお  
願いをしてダンボールでガバッと何箱も何箱もお借りして、1年経ったらまた入れ替え  
さして貰ってということもしていただいていますし、今学力向上に向けて言語活動の充実  
が絶対に大切ですと言われるんです。大変学校現場もそれはそれなりに苦しくて、図  
書館サポーターの方々が傷んだ本をこちらで研修していただいた形で修理していただい  
たり、読み聞かせをしていただいたりしながら、子どもが週に2冊ずつ借りれて、夏休  
み前になると3冊借りられますよというふうなシステムでしています。本校は大正小学  
校なので一番南の端で、志紀へ行くにも龍華に行くにもちょっと遠くて、有難いことに  
うちは移動図書館に来ていただいていますので、やはりその日は子どもたちはその車の前  
で鈴なりになっています。今週はたまたま、読書週間というのを取り組みました。通帳  
は無いんですけども、用紙を配りまして、借りたら後ろにハンコを押してもらえると  
いうふうな形にただけで、担任の先生が笑ってたんですけども、普段全く借りない  
のに借りに行ったらたまたま悩んでいるうちにチャイムが鳴って、バーコードをピッと  
してもらえなかっただけで、普段借りなくせにどうして今週はそんなに怒っているの  
って言って笑ったんですという話を担任の先生から伺ったり、子どもってきっかけがあ  
ったらやっぱりやりたいんだなあ、そういうきっかけを作ってあげることで本当の本  
好きになってくれたらいいなと思いつつ、学校の方も各学校の実情を聞きますと、か  
なり頑張ってる小学校もありますので、全ての学校が自分たちの出来る方法で  
子どもたちに向けてやっていきたいと思っていますので、また図書館さんの方にも助け  
ていただきながらよろしくお願ひしたいと思っています。何しろこの提案と回答を見さ  
せていただいて、本当に頭が下がる思いです。ありがとうございました。

<松井会長>ありがとうございました。いかがでしょうか。他の方々は。どうぞ、前川委  
員さん。

<前川委員>すみません。先ほどの龍華図書館の利用者アンケートのことなんですけども、  
その前の年は他の3館もアンケートを取られて、質問項目は同じだということで、比較  
検討できるためにそんなふうにしたということでしたね。これは中身を見せていただ  
きますと、利用者の満足度のアンケートでもあるのではないかなと思います。かなりい  
ろんな図書館、他の日本の中のいろんな図書館のをみますと、こんだけたくさんペー  
ジ数を使ってらっしゃらなくて、もっと簡単にまとめてらっしゃるのをよく見るん  
ですけど、他の図書館と八尾の図書館との比較検討みたいなものもされた方が、よく使われ  
ているということがよく分かるのではないかなと思います。満足している、利用者がね、  
それもアピール、知りたいしすべきではないかと思つて。それから、学校の現場のお  
話を伺って、すごい興味深かったんですけど、八尾市の学校図書館にはそれぞれ司書教

諭の先生と司書さんというのがいらっしゃって、八尾の各図書館とのパイプというかそういう役割もされているんでしょうか。これだけ八尾の図書館って4館ともよく頑張っただけというものが、この協議会出させていただいて分かってきたんですけど、もちろん公共の図書館は学校図書館のサービスをしなければならぬって法律で決まっていますから、サポートされてると思うんですが、受入される学校図書館の方でも能率よく、効率よく受け止めるような工夫というのが学校図書館の方にも要りますよね。でないと、せつかくの公共図書館のご努力がちょっとパイプが細かったら行き難いとかよくありますよね。それがお互いに双方向にされているのかということもちょっと教えて欲しいなと思うんですけども。

<西村館長補佐>学校図書館との連携ということですね。各学校には有償ボランティアのサポーターさんが配置されています。そのサポーターさんに対して、こういう運営したらどうというような働きかけであるとか、先ほど先生の方からお話がありましたが、そういった研修とか、修理キットをこちらの方から各小・中学校の担当者の方にお渡しして、このキットで処理しなさいよという形で、併せて研修もするという形もさせていただいております。また、学校貸出として、年間1回、年度の頭に各小学校へ八尾図書館から貸出しています。それに加えて貸出時に学校への配送の依頼などの相談をいろいろ受けますが、なにぶん各図書館でも割ける人員というのもございますし、学校で必要とする本がかぶってくる場合など含めて学校図書館と公共図書館との連携を緊密にすることと、団体の貸出の時間帯を広げたりとか、いろいろ使い勝手のいいように改善もしてはおります。しかし、小学校の中でも貸出状況に差はあるので、そういった部分を埋められたらなと考えております。

<前川委員>すいません。これすごい大きな問題にぶつかりますので、ここでしゃべろうと思ったらまたすごい時間がかかると思うんですが、学校自体が学校図書館を持っていられらっしゃるんでしたらその問題でもありますよね。要するに、コレクションをどれくらいやれば教科にふさわしい働きができるのかということに行くと思うんです。で、そもそも学校図書館というのは読書するだけでなく、科目に関係のあるコンテンツというんですか、本を中心にしているいろいろな用意しないと生徒さんたちには働きかけできないですよ。そういうものがまず準備されているのかどうか。それに携わる専門家がいらっしゃるのかどうか。そして足らぬところは助けてもらう、公共図書館に。

<小林委員>学校の現状として、学校には司書教諭というのを1人、教諭の中にその免許を持っている者がいるかどうか校長としては調べますね。持っていますということになると、本校の司書教諭として選任します。でも残念なことに、これは大阪府のいわゆる定数で、国の定数で教職員の数はクラス数に対しての何名ということで決められていますので、いわゆる専任の司書教諭として図書室に常に居ますよということはできないんですね。クラス担任を持っていたり当然してきます。そこをカバーしていただいているのが今学校図書館サポーターということで、一定図書館司書等の資格を持っていられらっしゃる方が来ていただいて、図書委員会を担当している教諭であったり、あるいは司書教諭の免許を持っている教諭であったりとその学校の図書館にどういうふうな本を買っていくのか、当然これまた八尾市と一緒に学校も予算化された中での、その中で図書いくら買いますかということで予算委員会というのを年度当初に開くわけです。クラブはこ

れが欲しい、図書はこれが欲しい、紙も要るよね、インクも要るよねということで割り振りをしていくわけですがけれども、それ以外に有難いことに、学校によってはPTAさんの方が子どもたちの読書活動を充実させてやって欲しいということで、一定毎年かなり大きな金額でPTA予算の中で予算化してくださってる分がありますから、比較的その部分を自由に選書して買っています。その選書についても、古くなっている、あるいはこの資料は使えないよねというものを一定廃棄して、その部分について空いた棚にどんだけのもが入っていくのかということで、図書館は大変狭いですから、そこに子どもたちが1クラス分は絶対入って本を選んだり、読んだりするわけですから、学校図書館に入ってくるという冊数はおのずと決まってくる。その中で、何を残して何を入れていくのかは結構苦労されていると思います。教科の面で、例えば子どもたちが1冊1冊国語辞典を買って、自分の辞書として付箋を貼っていくという活動もしますけれども、そうではなくて、例えば漢和辞典なんかは学校で1クラス分の冊数があって、使うときにそれをがばっと図書室から移動してきて使うとか、いろんなことを考えながら、教科からの要望も受けながら選書しているような形ですね。だから、なかなか学校の人員であるとか蔵書の種類・数、そういうところは、たぶん市の図書館さんと同じような悩みが学校の中でも、その狭い学校の中の一部の悩みですけども、同じようなことが規模小さく問題としてあるというのが現状だと思います。

<松井会長>ありがとうございます。時間もだいぶ迫っておりますけれども、市の図書館の活動についての議論だったと思うんですが、学校図書館も含めての議論にまでなってしまうと、ちょっと範囲が広がってしまったところもあります。ちょっと戻しまして、市の4館の活動についてのご意見やご質問はもうよろしいですか。大丈夫ですか。はい。分かりました、ありがとうございます。

そうしましたら次の議題に移りますが、よろしいでしょうか。報告(2)八尾図書館40周年及び新八尾図書館3周年についてということで、その行事についてですね。ではどうぞ、お願いします。

<西村館長補佐>そうしましたら、報告2についてでございます。

八尾図書館40周年、新八尾図書館3周年の記念行事についてであります。八尾図書館におきまして行われますイベントの大まかなスケジュールを一覧表にしてお示しさせていただいております。講師派遣を行っていただく都合等もありますので、詳細が固まっていないものもありますので、その点ご容赦いただきたいと存じます。先ほど志紀図書館・山本図書館20周年のところで、記念ロゴの部分についてもありましたけれども、40周年の記念のロゴ等についても八尾図書館の方で現在作成をいたしております。こちらも八尾図書館の職員の方が作っています。イベントのポスターやチラシにも使っていきたいと思っておりますので、またご確認の方よろしく申し上げます。また、図書館の日である4月30日(日)に新八尾図書館が3周年を迎えますことから、子どもの読書週間と合わせて記載の通り実施して参りたいと考えております。

また、八尾図書館40周年の取り組みにつきましては、日程等決定次第、ホームページや市政だより、館内の掲示等にて、順次市民の皆様へお伝えして参りますので、よろしく願いいたします。以上簡単ではございますが、ご説明させていただきます。よろしく申し上げます。

<松井会長>ありがとうございました。では、何か質問はございませんか。

<前川委員>さっきのロゴの話なんですけれど、その館の職員の方をお願いするというのはお金の関係ですか。お金がないから。ロゴは図書館員の方に頼んじゃうんですか。

<西村館長補佐>おっしゃるとおりです。つきません。

<前川委員>全然ないの、お金は。

<西村館長補佐>ほとんどないです。手づくりです。山本・志紀の20周年と一緒にです。

<前川委員>さっきの山本と志紀の2館のロゴも素敵ですよ、とてもいいんですよ。でもね、せっかくの何周年というときにね、市民を巻き込まないともったいないということはないですか。皆さん少しずつ出し合って、カンパでもしてね。八尾にもいろんなデザイン関係の方、いっぱい住んでらっしゃるのではないかしら。こういう時にね、その方を募集して、どっかの会場で表彰してね、テレビ局とか来てもらったらすごい宣伝になると思うんですよ。もっと巻き込めると思うんですが、もったいないくないですか。こんな機会ねえ、思いません。せっかくね。例えば、読書通帳のナンバーワンの人を表彰するとか。私は読書通帳というのはあまり人に見せるものではないと思うんですよ。読書の秘密とかでね。けど、かめへんよって言う人やったらまたいいのかなという気も。まあそれは置いてきまして、ロゴ、こんな機会というのを逃すのはもったいないのかなと。私はいくつかお聞きして思ったんですが、皆さんはどのように思われますか。二宮さんどうですか。

<二宮委員>どちらも気持ちが分かるんで、市の職員ではないんですが。でも一般公募でもいいん違うかなとも思いますね。でも、素敵なロゴを作ってくさってるからいいのかなとも思いますし。

<西村館長補佐>今現在、ロゴについても作成して、最終段階ですけれども、来年度明けから使っていきますので、実際公募するとしても期間がなかったというところもあるんですけども、40周年と含めてこれ余談になりますけど、市政70周年というのが平成30年度迎える形になりまして、これとは別の次元になるんですが、例えば70周年でされる他の部局のイベントに図書館が乗っかるとか、そういうのもしていきたいなどは考えておりますので、今お示しさせていただいている以外にも、ちょうど40周年迎えるのが平成30年1月になりますので、30年度も合わせてやっちゃおうかみたいな話も出てます。同じようにできるやろうと、ちょっと遅くなるけど一緒にしたらどうかという意見も出てますし、同じ生涯学習部の中でイベントを共有してやろうとか、それは70周年の記念事業と40周年の記念事業をコラボレートするとかそういう案も出てきており、いろいろ意見は出し合ってはいるところです。

<二宮委員>あのね、今ちょっと見てたんですけどもね、9月から10月とありまして、「ふれあい号」 in 河内音頭まつりってありますね。これは、5千人の河内音頭踊っているものじゃあないんですか。

<西村館長補佐>河内音頭まつりがある会場に移動図書館を設置し、そこで貸出をするイベントを計画しております。

<松井会長>他はよろしいですか。いろいろな行事が企画されて計画されていて、非常に楽しそうだというふうに思います。これ基本的に案としては図書館側から出てきた案ですか、市民の側からの提案とかも含まれているんでしょうか。

<西村館長補佐>図書館の事務局として考えてきた案がほとんどですけれども、ボランティア団体さんに協力を仰ぎ、いろいろご意見をお聞かせていただいております。また、共催していくイベントもあります。

<松井会長>そうですね。前川委員さんがおっしゃったように、市民を巻き込んだの行事・イベントということで、頑張っただけだと思います。こういうイベントをやったら、だいたい図書館としてはそれによって図書の貸出にもつなげていきたいというふうなことを考えるんですけれども、なかなかイベントはイベント、本の貸出は本の貸出みたいにして、どうしてもなかなかつながりを持ってないというようなことを以前伺ったように記憶しておりますので、こういうイベントからどうやって図書の貸出に繋げていくかというところをこれからボランティアの市民の皆さん方と一緒に深めていただきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

もし、他にご意見がなければ、ご質問がなければ、次のその他というところに移りまわがいかかでしょうか。

<仙田委員>すいません。行事予定で1点だけ質問させてください。夏休みに「本の帯づくり」とか「おススメ本の帯」っていうふうにありますけど、地元の書店組合さんらとのコラボとかは考えていらっしゃいますか。

<西村館長補佐>一応、こちらは図書館側でやる形で考えています。

<西崎館長>4月の予定に書いております「ブックカバーの配付」というものがあります。デザインは八尾にちなんだものということで、地域の河内木綿の模様の保存をしている方々がいらっしゃいまして、そちらの方とも一緒にすることですすすめております。これまで、図書館の暖簾を作ってもらったということもございましたし、そういった繋がりを大切にしながら、これからのイベントもやって行けたらと思っております。まだ企画中のものもございまして、広く市民の方々にお示しできない部分もございまして、当然、ご意見・要望、あるいはその思いを組み入れながらイベントに活かしていきたいと考えております。

<松井会長>よろしいですか。それでは、最後の報告（3）その他に移りたいと思いますが、これについては何かございますか。

<西村館長補佐>すいません。二宮委員さんの方から配布物なんですけれども、契約で困っていませんかということで、クーリングオフについての件で委員の皆様にご存知のございましたということで、配布物ございますのと、あと、松下委員さんの方から市立中央図書館の方で未来の図書館始めませんかということで、チラシの方今から配らせていただきますので、よろしくお願いします。

(チラシ等配付)

<松下委員>一言だけ、大阪市のイベントなんですけれども、「未来の図書館・はじめませんか？」ということで、今チラシをお配りさせていただいたんですが、総務省の地域情報化アドバイザー派遣事業というのがございまして、その派遣事業の方に申請した結果、岡本<sup>まこと</sup>真さんという方、アカデミックリソースガイドの代表取締役をやっていらっしゃるコンサルタント業みたいなことで、図書館にも造詣が深いんですけれども、その方が図書館でのICTということで、3年後に図書館のシステムの更新も迎えますので、それも絡めた形で何ができるかということで、1月・2月・3月と3回来ていただくことに

なったんです。で、その中で、3回目に来ていただいた時に図書館のこういう講座も市民向けでということでしたらということなので、図書館の職員がというよりは市民の方にこんな図書館もあるんだよということを知っていただけたらと思いますので、是非ご参加いただきたいと思います。

<松井会長>こちらの方はよろしいでしょうか。

<二宮委員>図書館とちょっと関係ないんですが、くらし学習館というところで消費者相談というのをしております、特殊詐欺とか結構こういう手口とかでね、電話とかで誘われる方、特に高齢者なんですけれども、もし、ご近所でもそういう方がおられておかしいなと思われましたら、是非電話番号とか書いておりますし、お電話くだされば結構だと思います。ありがとうございました。

<松井会長>ありがとうございました。ちなみに、八尾市というのはベトナム語を母語とされている住民の方は割とおられるんですかね。

<西村館長補佐>多いです。

<松井会長>それで、さっきの購読の新聞にも、ベトナム語の新聞が入っているんですね。

<田中部長>今外国人の市民の方が6千7～8百人くらいやったと思います。その中で千人前後のベトナムの方がおられるみたいです。

<松井会長>そしたら、一応、今日はこれで。

<西村館長補佐>池田委員さんの方からその他。

<松井会長>では、池田委員さんどうぞ。

<池田委員>時間も押しているのに、申し訳ありません。実は、前回ですね、昨年11月2日に「えほんマルシェ」ということで、人と本、人と人、人と地域を繋げるイベントということで、図書館の方にご協力いただいて、子育てイベントをしました。その中で、そのイベントに向けて、中高生の読み聞かせボランティアの養成ということで募りまして、6名の応募をいただいて、その子たちと一緒に各図書館まわらせていただいたり、イベントに参加させていただいたりして、一定読み聞かせをして子どもさんの前でできるような形で、このイベントに向けてやって参りました。それを簡単にまとめたDVDを作りましたので、お付き合いいただきますようよろしくお願いいたします。

(絵本マルシェ 中高生ボランティア活動紹介DVD上映 及び 解説)

これで報告とさせていただきます。お時間いただきまして、ありがとうございました。

<松井会長>すごい良かったです。楽しい映像を見せていただいて、本当にありがとうございました。絵本マルシェですか、これからも継続してできるといいですね。

そしたら、一通りの議題は終わったと思いますが、次回はどうしましょうか。

<西村館長補佐>次回日程でございますが、新年度に入りまして6月後半から7月中旬あたりの開催になろうかと考えております。議会日程等がまだ確定しておりませんので、議会日程が確定しましたら会長と協議のうえで調整して参りたいと考えております。また、6月後半から7月中旬と申し上げておりますが、多少前後する可能性というのがございますので、また決まりましたら各委員さんの方にご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

<松井会長>以上を持ちまして、第2回図書館協議会の方を終了させていただきたいと思います。皆様、ありがとうございました。